

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	平成25年1月6日	評価結果市町村受理日	平成25年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhoku_detail_2010_022_kan=true&JivsvosvoCd=2272100377-00&PrfCd=22&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成25年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には小さい菜園があり、耕すところから収穫までの一連の作業を、近隣やボランティアの方に教えて頂きながら、利用者様と職員が一緒に行っています。一緒に育てた無農薬野菜を収穫、調理し召し上がることにより、季節を感じています。四季折々のイベントも企画しており、ご家族の方にも楽しんで頂けるようにしています。秋にはお祭りの山車がホーム駐車場内に来てくれるなど地域にも根付いています。また、ペットを飼い、職員と一緒に餌をあげたり、ボールを投げて遊ぶことで、利用者様の癒しになっています。ほほえみでは、誰もがその方らしく過ごせることを支援しています。のんびり穏やかに、笑顔があふれる家、そんなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山を身近に仰げる、富士宮市のほぼ中心部に位置し、地域に密着した「季節行事」「地域行事」「ホーム行事」を見事に調和した行事を企画し、利用者に提供している。ホームの名称「ほほえみ」は、創業者の「…いつもひまわりのような微笑み…」の想いを込めたものであり、それを理念として管理者・職員が共有し、その実践に取り組んでいる。センター方式を活用したケアプランの作成及び職員全員の参画によるモニタリングとプランの更新、近隣・ボランティアとの連携による菜園の活用、利用者の癒しを目指した愛犬の存在等の独自の取り組みも見られ、これからも益々利用者本位の運営が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるように支援します』という理念を、管理者、職員一同共有し取り組んでいる。	創業者の「・・・いつもひまわりのような微笑み・・・」の願いを込めた理念を「ほほえみ」というホーム名にし、管理者・職員が一丸となって理念を共有し、その実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設の際、地域の方に集まっていたき、理念や取り組みをお伝えしご理解いただいている。また、散歩時には近所の方と世間話をしたり、地域の行事に参加させていただくことにより、交流を深めている。	多彩な「地域行事」「ホーム行事」「季節行事」が年間計画化され、地域とホームが相互にかつ日常的に交流している姿が伺えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域から相談に来られる方がいらっしゃるので、支援の方法などをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。その際外部の方の要望や意見などを交換し支援に活かしている。	2ヶ月に1回着実に開催されており、家族時にはその隣に利用者や区長・市職員等が参加し、日常活動や時期の活動・意見や要望等が話され、意見が活かされて「雰囲気明るくなった」という感想が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	頻繁にはないが、何かの際にはご相談をさせていただいたり、ご協力をしていただいている。	行政の理解や支援があり、協力関係が築かれている。また、生活保護・権利擁護の利用者もおり、担当者とは日常的に報(告)・連絡)・相(談)が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として行っていないが、命の危険にさらされ、守るための代替がない場合のみ、事前にご家族に現状説明し、理解・納得いただいた上で、同意書に署名・捺印いただいたから、一時的に実施する取り決めになっている。	0宣言を行い、マニュアルを整備し、禁止対象行為を具体的に理解して取り組んでいる。拘束を行う場合の手続きも定められている。	拘束をフィジカル・スピーチ・ドラッグロックの観点からまとめてみると、更に具体的に職員の理解が深まることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のミーティングの際、職員の対応や対応について意見交換をし、お互いを振り返り、見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様がいらっしゃることで、職員にも浸透している。また研修に参加し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、御家族の不安や疑問に思うことを伺い、十分な説明と話し合いをし、納得いただいたうえで契約いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中から聞き取り、その情報を職員で共有し反映している。ご家族については、面会時に聞くことを心掛け、できるだけ要望にそえるよう努力している。	職員や看護師から、毎月利用者の観察結果やホームでの様子が、手紙で適格に伝えられており、利用者・家族の意向を汲んだ取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、全職員が意見や提案をできるような時間を設けている。またミーティングで取り上げてほしいことを記入するノートもあり、職員が積極的に意見を出せるようにしている。またそれを多方面に反映している。	ミーティングや提案ノート等、職員の意見反映の場所や時間がセットされており、そこで出された意見をホーム運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格、適正、感性を知り、励ましやねぎらいの言葉を掛けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合った研修への参加を促している。また、ミーティングの際に管理者や職員の看護師が講習を開き職員のスキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で行われている研修や新年会、運動会など、交流できる場にはすすんで参加し、情報交換をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	『傾聴』という言葉を理解し、日々の会話の中から聞き取るように努めている。しかし、入所を理解できない方、言葉に出すのが難しい方もいるので思うように聞き取れないこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際、ご家族の意向や不安なことをじっくり聞き、意向にはできるだけ添えるように、不安な事は取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム対象外の場合は、担当窓口と相談し他のサービスの利用を検討していただくようお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるため、一緒に作業する中では、常に尊敬し、教えていただく姿勢で過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にご家族の意見や意向を伺い、その希望に添えるよう職員が支援するという関係を、築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に自宅に寄り植木の世話をしたり、近所の方とお話することにより、関係を保てるようにしている。また馴染みの方には、いつでも面会に来ていただけるようお伝えしている。	昔の馴染みの人や場所・物だけでなく、このホームに来てから築かれた「新しい馴染みも大切に」という、新しい視点からの対応は新鮮である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとつの作業を職員を交えた数人で行うことにより、みんなで談笑し、信頼関係を築いている。その中でお互いの存在を確認し、誘い合ったり、支えあったりする姿が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了は、入院後転院、死亡のケースがほとんどです。葬儀には代表が出席している。ご家族の必要に応じて相談にのる体制でいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き取るように努め、会話から聞き取れない方や自己決定ができない方は、その方が行動で出すサインから、また生活歴、ご家族の意向も含め、職員全員で共有し話し合っている。	センター方式を活用し、生活歴や家族の意向を聞きながら、日々の関わりや態度・仕草等からその人の思いや意向の把握に努め、職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入し、本人やご家族から聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	介護記録に記入することにより、全職員が情報を共有し、把握できている。また特記事項を記入するノートもあり活用している。職員は介護記録とノートには必ず目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気付きは随時報告し、ミーティングで、現状に適切な支援を話し合い、全職員で共有し、介護計画に反映している。	日頃の介護記録や担当職員の気付き、家族の意向等を取り入れて介護計画が作成され、随時のミーティングを通して話し合いやモニタリングを行い、日々のケアを行っている。	介護記録や職員の気付きの話し合い、定期的なモニタリングによる介護計画の評価確認から次の計画に反映する仕組み作りの取り組みが行われており、その早い完成が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には毎日の気付きを記入している。特記事項は更に専用のノートに二重に記入することにより職員への情報の浸透をはかっている。工夫や実践を書くことにより、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、ご本人やご家族の意向を伺い、それに添えるよう随時対応を検討し、支援している。そのときその方にあったサービスができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の暮らしの中で、その方ができることは、可能な限り力を発揮していただきながらも、無理のないよう支援させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月に2回の往診があるため、利用者様の皆様にはそこで医療を受けていただいている。しかし、ご家族やご本人がなじみの医療機関での受診を希望される場合は、そちらで診ていただいている。	24時間対応の協力医療機関との連携が確立され、看護職員による日々の健康管理と合わせて適切な医療支援体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているため、健康管理は看護師を中心に行っている。気づきや異常は随時職員に伝えられ、適切な対応を話し合っている。また、看護師は24時間オンコールになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の協力により、迅速かつ安心できる対応をすることができている。また、病院との情報交換も行っている。入院中は常にご家族と連絡を取り、状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期ケアの書類を作成し、ご家族の意向を伺っている。	終末期対応の基本的な考えに基づき、利用者や家族に向けたターミナル説明書、意向伺い書、依頼・受諾書等が整備され、職員の研修等も行われ、最近も看取りを経験しながらホーム全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員が把握している。またミーティングの際に、看護師が講習会を開くなどして、実践力アップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署の協力のもと避難訓練、自火報、スプリンクラーの使い方の講習も開いていただいている。ミーティング時にも避難方法を全職員で実践し身につくよう努力している。近隣への協力も依頼し、受けていただいている。	年2回の避難訓練、地域防災訓練への参加、費用を掛けてのスプリンクラー設置、近隣との協力関係の確認等の体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを忘れず、個々の生活歴を把握し、人格を尊重した言葉かけや、対応を心掛けている。	日々の関わりの中から態度や仕草、表情、声掛けの反応等から利用者一人ひとりに向き合い、人生の先輩としての対応を心掛け、自分に置き換えたら、と問いながらのケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけご本人表現や自己決定ができるようその方にあわせた声掛けを行っている。しかし利用者様の中には意思表示するのが困難な方もいらっしゃるので工夫するよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため、すべて希望に添えるわけではないが、できる限りその方の意向を尊重し、応えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で決められる方にはお洋服を選んでいただいています。また馴染みの理美容室に行かれる方や、お肌のお手入れをされる方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた野菜を収穫し、調理したり、行事食を作ることで季節を楽しんでいる。調理から片付けまでの一連の作業は、個々が無理せずできることを見つけ、職員と一緒にやっている。	ホーム菜園の収穫物や近隣の差し入れ等を活用し、利用者の希望を聞きながら日々の献立を作り、利用者の出来る協力を引き出しながら職員と一緒に食事を楽しめるものにする取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後チェックしている。また定時に水分補給する時間を設けている。その方の状態に応じて食事量、水分量を変えたり、摂取しやすい形状にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の力量に応じた、口腔ケアをしチェック表に記入している。また、夜間は義歯のつけ置きも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄チェック表に記入することにより、全職員が個々の排泄パターンを把握し、定時、随時に声掛けをし、その方に合わせた支援をしている。	利用者個々の排泄パターンを職員間で共有し、その人に合わせた声掛け、誘導等に心掛けています。利用者一人ひとりの状況を確認しながらリハビリパンツやパット等を使い分け自立支援に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し、排便の状態を全職員が把握している。野菜や繊維質を多くとること、トイレの前に歩いていただくなどして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定できる方には、声掛けをしでるだけご本人の希望に添えるようにしている。その他の方にはご家族から意向を伺っている。体調を見ながら無理のない入浴を支援している。拒否のある方には声掛けの工夫をするが無理強いはいしない。	2日に1度の入浴を基本に利用者の希望に合わせた対応を行っている。ゆず湯の活用や時間・人を変えた誘導を心掛けながら無理に勧めず、入浴を促す取り組みを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が日中リビングで過ごしているが、休息をご自分から希望される方や、ご自分で居室へ行かれる方もいる。その日の個々の体調を見て、職員が休息の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイルを作り、最新の情報を添付している。また、個々が使用している薬名と作用の一覧表を作り、理解に努めている。薬によっては服薬前後に血圧測定、頓服の場合には記録に記入し、全職員で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や力を把握し、できることをやっけていただいている。その際には感謝の気持ちを伝えている。嗜好品や楽しみは日常の会話の中から見つけ、支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や嗜好品の買い物など、個人の状態に合わせて行っている。地域の行事にご本人の希望を伺い参加するようにしている。	季節や地域・ホーム行事を組み合わせたイベント等の外出機会を作り出す他、日常の買い物や日々の散歩等戸外へ出る対応が行われている。	イベント的な外出機会のみならず、菜園での草取りやウッドデッキでの外気浴等日常的に当たり前に行っていることなど家族へのPRにも取り組み願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、ご家族と相談の上、利用者様が所持管理している。また、こちらで預かり管理している方もいらっしゃる。金銭に変化があった時は必ず職員が出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける方には、暑中見舞いを書いていただいたりしている。電話はご本人の希望があればかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り、常に明るく清潔な空間づくりに心掛けている。リビングには季節に合わせた壁画やオーナメントを飾り、季節を感じられるようにしている。	明るく清潔でゆったりとしたリビングにはホームシンボルの愛犬のお雛様が飾られている。ウッドデッキやソファが配置され、利用者がゆったり落ち着いて過ごせる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席、ソファ、和室と異なる空間があるため、利用者様の好きな所で過ごしていただいている。その際お互い誘いあう姿も見られ、雑談、読書するなどし、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家で使い慣れたものを持ち込んでいただくことにより、利用者様が居心地良く過ごせるようにしている。	利用者と職員と一緒に清掃し、馴染みの家具や写真、伴侶の遺影や趣味の品々等が持ち込まれ明るく清潔な居室環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・エレベーター・手すりを設置することにより、利用者様が安全かつご自分の力を発揮しやすく、できるだけ自立した生活を送れるよう配慮している。		